

トンボの標本をつくろう

9月12日(土) 10:00~11:30 ★ 参加人数 子ども 25名、大人 15名 ★

1. お話し:トンボの生態と多様性を学ぶ

講師 ビオトープ・ネットワーク中部 宇野先生

トンボの基本: 雄と雌の確実な見分け方

日本の多様性: 日本には約200種類ものトンボが生息している

生命の神秘と厳しさ: 1匹のメスが約2,000個の卵を産んでも、ヤゴ(幼虫)になれるのは約200匹、さらに成虫になって次の世代へ命を繋げるのは**わずか1ペア(2匹)**という厳しい生存競争について

危機に瀕する自然: 天然記念物のトンボや、身近に思えて実は数多く存在する「絶滅危惧種」の現状

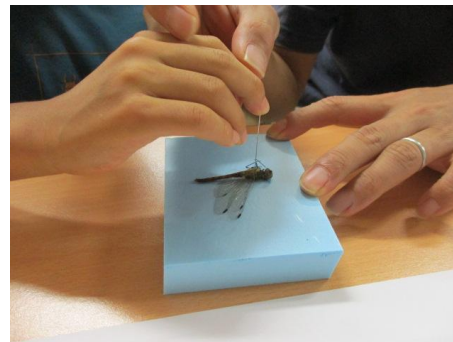
身近なアカトンボの観察: 多彩なアカトンボの仲間を紹介し、普通に見られる種類の簡単な見分け方



2. 体験 トンボの標本づくり

アキアカネ: 特徴が分かりやすい「横向き」の姿勢で固定

ウスバキトンボ: 美しい翅(はね)の形がよく見えるよう「展翅(てんし)」で固定



3. 参加者の声

- ・初めて標本を作ったので、実際にやってみて面白かった! 2個も作れて嬉しかった!
- ・トンボの羽の色の違いを見つけるのが楽しかった。
- ・大好きなトンボのことがよく分かった。
- ・赤とんぼの種類がこんなにたくさんいるのを初めて知った。
- ・トンボの見分け方や、標本の作り方がよく分かった。
- ・トンボがウンチをすることを知ってびっくりした。
- ・エノコログサを芯にする昔ながらの知恵に驚きました。その虫が一番・美しく見えるように丁寧に作るという先生の言葉が響きました。
- ・日本に200種もいることや、2,000個の卵から成虫になれるのがわずか2匹という生態を知り、大変勉強になりました。